

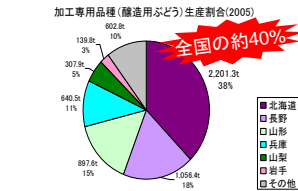
道央広域連携地域「地域づくりの方向」【約10年：2008(H20)～】

- **大消費地のニーズにマッチした一次産業の多彩な取組が進展**
 - ・おいしい！安心！こだわりの農産物の空知ブランドづくり(道)
- **日本の農水産業をリードする「食」の供給力が強化**
 - ・「食の供給力」を支える地域整備プロジェクト(国)
- **多彩な資源を生かした観光産業の活性化により交流人口が増加**
 - ・北のゲートウェイ道央観光プロジェクト(道)
 - ・地域力発掘！“石狩滞在型観光”進化プロジェクト(道)
 - ・食や体験の魅力発見。そらちのファンづくり(道)
- **国内外との交流や物流が拡大**
 - ・「北海道の玄関口」としての広域ネットワーク構築プロジェクト(国)

「地域づくり連携会議」における首長意見

- ・観光客のニーズは変化してきており、大温泉地や大きな観光施設を求めるよりも **地域の特性を活かした観光を求めている。特に空知管内は地域資源が多いので、連携を取りながら観光産業を発展させていきたい。**
- ・地域が活性化するように我々なりに貢献できるのではと思っている。**滞在型観光や食についても発想の転換など色々ある**と思う。商工も厳しい中ではあるが少しでも連携できるよう検討していきたい。
- ・他に比べ優位性のある観光地の発掘、情報発信、観光インフラ整備が大事。
- ・長く滞在してもらうには**住民が行う地域の魅力づくりや連携が大事。**
- ・受け入れ態勢づくりには行政の力が必要。**交通案内や観光看板、外国人への配慮、自然環境の維持などには行政の力が必要。**

北海道は「加工専用醸造用ぶどう」の生産量が日本一(シェア約40%)であり、また、石狩・空知管内にはワイナリーが多数存在している。
「ワインツーリズム」は、欧米や山梨県で既に取り組まれているが、こうした地域の特性を最大限に活かすことが地域の活性化にとって重要である。



役割分担と目指すべき方向

運営主体＝

民間(「北海道ワインツーリズム」推進協議会)

- ・各種ワイナリーツアーの構築
- ・ツアーによる北海道への国内外からの観光客の増加
- ・北海道観光への集客力増加
- ・各ワイナリー個々のレベルアップ

市町村・支庁・開発建設部等

- ・「地域づくり連携会議」等を活用し、運営主体の取組みを支援
- ・各市町村は、「短期移住」「農業従事者の確保」など、各市町村が取り組むべき施策の推進に活用

具体的取組み

- ・ワイナリーツアーの企画、立案
- ・各ワイナリー間の連携に向けた調整、支援
- ・ワインツーリズムに関連した新たなイベント等の企画・立案

期待される副次的効果

直接的効果

- ・国内外からの観光客の増加
- ・石狩・空知地域の魅力発信
- ・連携による地域の活性化

【商品販売力のアップ】

- ・各ワイナリー独自商品の販売力アップ(民間主体)
- ・周辺商品の販売力アップ(民間主体)
- ・周辺商品(グラス、ソムリエ・ナイフ等)開発によるクラスター創出(民間主体、市町村・道支援)

【短期移住の促進】

- ・北海道への短期移住を希望する方々へのインセンティブ付与(市町村主体、国・道支援)

【農業従事者の確保】

- ・ワインだけではなく「北海道農業の魅力」を発信することにより、農業従事者の確保に向けたインセンティブ付与(市町村主体、国・道支援)

発展的効果として

ワイナリーが比較的多く存在する石狩・空知管内を舞台とするこの取組みが、「日本酒」「蕎麦」「スイーツ」など、北海道に優位性のある品目に着目した同様の取組みを行うための、「先駆的な取組み」となり得るものと期待される。

